

人口ビジョン・総合戦略に係る創生会議委員の意見

1. ターゲット別

若者

- ・ 中学・高校での仕事観・人生観の育成
- ・ インターンシップによる若者の定住化
- ・ 市役所を I ターン・U ターン先に
- ・ 入社 10 年目程度の成熟した人々
- ・ 新幹線通学費用の補助
- ・ 静岡に就職した人を対象にして東京へ遊びに行く補助を（5 年間）
- ・ 婚活推進

若年夫婦

- ・ 若い夫婦が住みたいと思える街づくり
- ・ 既婚率 1 位の市を目指す
- ・ 出生率向上
- ・ 出産・育児費用の補助
- ・ 産休中の支援の充実
- ・ 託児の充実
- ・ 多産世帯の補助
- ・ ワークライフバランスの推進（8 時間労働の徹底、有給休暇取得率 50%以上）
- ・ ワークライフバランス等の優良企業表彰
- ・ キーワードは「子育て」「教育」「介護」「労働」
- ・ 強い産業・働きたい場所づくり
- ・ 転勤族の妻子が住みたいと思える街づくり
- ・ サラリーマン家庭の妻子が好む教育の充実
- ・ 子育て世代を留める教育水準の向上
- ・ インターナショナルスクールなど突出した施策によるサラリーマン家庭の繋ぎ止め
- ・ 資格取得補助（医療、二種大型など）※住宅補助の併用が効果的
- ・ ひかり号停車増便による首都圏ベッドタウン化

女性

- ・ 女性のライフステージに合せた仕事
- ・ 女性の U ターン
- ・ 女性の活用

- ・女性専用のハローワーク等の整備
- ・シングルマザー
- ・女性の本音を聴くこと
- ・女性政策塾などの養成塾
- ・まちなかカフェ、ロールモデルカフェ
- ・女性が仕事を続けられる環境づくり（保育所完備）

高学歴・専門性技術を有する人

- ・静岡のイメージづくりと魅力発信
- ・起業や再チャレンジを考える人への制度づくり
- ・行政コスト減のためのICT徹底利用
- ・住宅街整備（空き地利用）
- ・大学でのリカレント教育（成人向教養教育）の推進

シニア層

- ・首都圏の男性に移住ニーズあり。特に50代以上。
- ・「静岡型」高齢者の働く環境づくり
- ・介護産業の推進
- ・介護サービスの向上
- ・介護の自立型産業化
- ・介護などの非営利型サービスの生産性向上と民間主体のまちづくり
- ・文化に触れる機会を増やす
- ・健康長寿の推進
- ・高齢者の長寿命化
- ・シニア向けに健康、余暇が楽しめる環境づくり
- ・付加価値の高い3次産業の雇用創出
- ・シニア層は種まき、本命はその家族
- ・観光・ブランド産業は専門家に依頼した方がよい

ターゲットの設定

- ・ターゲットの絞り込み
- ・ターゲットは男女、文系理系など分解して分析
- ・「こういう人にきてほしい」という打ち出しが重要
- ・東京がターゲット
- ・本市以外からとってくるんだという姿勢でやるべき
- ・首都圏から地方への人口移動

2. 分野別

仕事・産業

- ・生産性の低い仕事＝おもてなしの仕事＝観光系の仕事の生産性向上
- ・農業や福祉などのミスマッチの解消
- ・起業の促進
- ・女性の活用推進
- ・サービス業系のベンチャー育成
- ・金融機関と協働した申請書づくり
- ・ベンチャー育成ファンド
- ・コミュニケーション能力の認定を行い、就職支援
- ・中小企業のICT化、一定規模の確保
- ・清水区の産業再生が不可欠

移住

- ・移住希望者は移住と観光の違いを自覚していないことが多いのではないか
- ・「静岡がいい」と感じてもらえることが大事
- ・移住者のフォローをしっかりとやるべき
- ・大都市暮らしに不安を抱え豊かさを実現できる生活したいと考える若者が多い
- ・若者移住者の企業資金の提供

まちづくり

- ・「まちの魅力創出」から始める
- ・「家康が愛したまち」をもっとアピール
- ・コンパクトシティの推進（住宅高層化による緑地創出）
- ・コンパクトシティについて議論すべき
- ・自転車のまち
- ・中山間地域住民の中心部移転
- ・津波危険区域内住民の移転
- ・空き家活用

文化・スポーツ

- ・文化度（文化・音楽・食など）を上げる
- ・美術館、音楽ホールなどの中身にこだわりを
- ・静岡交響楽団の振興

- ・三保のスポーツセンター化
- ・茶町で演劇

教育

- ・魅力的な大学の創設
- ・静大などが東京の大学と連携し授業を受けられたり、単位が取れたり様々な選択ができる場
- ・自然環境に特化した教育
- ・郷土に自信と誇りを持つ教育

防災

- ・津波対策等の安全対策アピール
- ・避難タワーの充実

農業

- ・農協が主となって農地を市民農園として開放
- ・農業後継者の育成
- ・農業塾
- ・お茶に特化したビジネスプランの提案
- ・お茶版バリスタ

制度・組織

- ・都市圏の自治体と包括連携協定、人の交流づくり
- ・市長直結の地方創生組織を民間人リーダーを受け入れて組織する（3分の1以上を民間）
- ・サラリーマン兼業議員、女性議員定数を設けるなど、意思決定機関の改革

3. その他

目標の設定

- ・人口55万人を目標
- ・人口増より豊かな社会生活を目指すという発想が必要
- ・目標設定の根拠を明確にする
- ・創生会議で目標の共有化が必要

進め方

- ・ ミッションにプライオリティをつける
- ・ アクションプログラムの作成
- ・ サブタイトルをつける（都市型移住促進運動）
- ・ 数値目標の設定、PDCAで精査してやっていく
- ・ 女性、高齢者の目線で考える
- ・ 短期10年で成果を出す取り組み
- ・ 官民プロジェクトチームはミッションをはっきりして進めるべき。進捗管理は市がコントロール。
- ・ 静岡市から藤枝市へ転出する理由を調べる
- ・ 過去の施策の検証が重要
- ・ 過去は個々の施策の間違いというより問題設定に無理があったと考えるべき
- ・ 地道にできることをやるのがよい
- ・ 本市と東京の両方の事情を解決できる取り組みが必要
- ・ 世代間を越えてみんなで考える
- ・ 面白い取り組みをしている人へのヒアリング（静岡の食材や日本酒をシンガポールへ輸出する取り組みを始めた静岡コンシェルジュ、フェアトレードの店舗経営者、静大の経済学科の生徒によるFM-Hi 番組）

その他

- ・ 従来型の拡大志向のみでは難しい
- ・ 適応戦略
- ・ 人口は横ばい、所得向上を狙う
- ・ 地方の生活の豊かさを実感できるようにする
- ・ 未来市民には、市民が受入れづくりをするのでわかりやすくサブタイトルをつける
- ・ エンターテイメント、自然、食を前面に
- ・ グローバル化の流れに取り組む